

3. 第4回金沢片町まちなかワークショップを開催しました

まちなかにおけるニーズ調査の結果を踏まえ、(株)金沢倶楽部の山田社長から講演いただき、交流スポット創出について話し合いました。

ニーズ調査の結果からみた特徴

- 高齢者は富裕層が多く、まちなかへの来街動機をつくることで重要な顧客となり得る。
- 子育て世代の主婦は子供目線でモノを捉え、整った環境で自分も楽しみたい。
- 企業支店長は金沢ファンが多く、他都市でスピーカー役を担ってくれる。
- 女子高生や大学生はお金の使い方を模索している様子。



交流スポットを考えるヒント

- これまでのターゲットの枠組みを分解し、新しく捉え直すことが必要
女子高生は「おやじ化」、子育て世代の主婦は「OL気分」、高齢者は「若者化」等、年代や性別などを超えて消費行動パターンが重複化している。
- 近年は「モノ消費」から時間を楽しむ「コト消費」に移行してきている
- 交流や出会いの場を「おまかせ」できる仕組みを創る
日本人は交流手段が限定的であり、得意でない。
- スマホ世代の交流方法について勉強し直すことが必要
- 待ち合わせスポットは、皆が携帯を持っていることを踏まえた場とする



さいごに

ハード整備は必要であるが多大な時間とお金がかかるため、同時に既存の資源を有効に活用することが大事である。能登島がもともとある地域の資源を活かし、新たな整備を伴わずに駅伝合宿の誘致に成功したように、今あるものの光の当て方を変えるだけで、時間もお金もかけずに人を呼び込むことが十分可能である。

発行：金沢片町まちなかづくり会議

<このニュースに関する問い合わせ> 金沢市市街地再生課 TEL：220-2676

— 金沢片町まちなかづくり会議 —

平成26年3月下旬

まちなかづくりニュース

Vol.3

トピックス

1. 「まちなか逍遥マップ」ができました♪
2. 犀川の活用検討について提案します！
3. 第4回金沢片町まちなかワークショップを開催しました

金沢片町まちなかづくり会議の役員及び部会員の皆さま、今年度の活動お疲れ様でした。今年度は会議発足一年目として、アクションプランの作成から始まり、チョコレートキャンペーンやマップ作成、犀川の活用検討などのワークショップと盛り沢山でしたが、皆さまの力で一つ一つ形にいくことができました。

“片町の元気はまちなかの元気”この合い言葉を元に、来年度も頑張っていきましょう！皆さまと共に活動に参加していただける方を引き続き募集していますので、お声かけくださるようお願いいたします。



1. 「まちなか^{しょうよう}逍遥マップ」ができました♪

まちなかづくりニュース vol.1 でご紹介いたしました市民向けの散策マップが出来上がりました。

金沢に住まいする皆さんに、もっとまちなかを訪れ歩き、まちなかの魅力を知ってほしい。そして、歩いてみると見えてくる「金沢の素顔」を発見してほしい。そんな思いから、『まちなか逍遥マップ』は生まれました。

このマップは、今回 5,000 部限定で作成し、片町周辺のお店や事務所で配布しています。今後は、皆さんの声をもとに情報を追加し、データ配信へと発展させていきたいと考えていますので、ぜひマップを手手に歩いて見て、感じたこと発見したことなどの声を寄せてください。お知り合いの方にもオススメしてくださいね！

それでは、次ページで、その内容や特徴をご紹介します。





テーマに合わせた6コース

- 松尾芭蕉が金沢で詠んだ句碑を巡る「加賀の細道」コース
- 名木を有名作家の小説とともに味わう「名木・文学」コース
- まちなかで御利益を授かる「パワースポット」コース
- 地元の人が愛する憩いのエリア「犀川左岸の坂道」コース

このほか「藩政時代の面影」、「まちなかの用水」のコース、“地元の人がオススメする寄り道スポット”も掲載しています

【配布場所】

ルネ本店、石田漆器店、雑貨九兵衛、メガネのシマダ、金港堂、九谷焼諸江屋、Mizube 本店、酒前線きたなか、金澤ちとせ珈琲香林坊店、喫茶ヒッコリー、北山堂、割烹たけし、寿観光株式会社、金沢市市街地再生課
片町商店街ウェブサイトでも申し込み可能

制作にご協力いただいた(株)金沢倶楽部の山田社長の言葉をお借りして、このマップの特徴と可能性をご紹介します。

最近の観光客は事前にそのまちを調べ、市民が支持するところへ出向く傾向が強まっています。そういったことから、このマップは市民向けですが、将来的に観光者向けにも十分なり得る可能性を持っています。また、北陸新幹線金沢開業の経済効果は非常に大きいと期待されておりますが、おそらくその効果は年々薄れていきます。そのため、金沢は『何度も訪れたくなるまち』『深掘りの効くまち』となる必要があります。

「一度や二度の来訪では、金沢は到底分かるまちではありませんよ」そう市民が自信を持って言えるように、金沢に住む皆さんが知識を深め、金沢の奥深さを紹介できるように、このマップが少しでも役に立てばと思います。



2. 犀川の活用検討について提案します！

第1回、第2回金沢片町まちなかワークショップにおいて意見交換を行った結果をまとめました。

コンセプト

- 「片町カルチャー」（片町にし茶屋街等の繋がりや文化）を活かす
- みんなで汗をかき、記憶を残していくことが大切
- 四季や歴史に沿ったまちづくり
- 犀星が美しさをうたった犀川の美しさをアピール
- 「昼」と「夜」、それぞれの顔の賑わいづくり

活用策の提案

(●は早期に取り組みたいこと)

「つなぐ」～人と人をまちとまちを繋ぐしかけづくり～

- 橋をかける（上流側・下流側に、8の字回遊ができるように）
- 犀川大橋付近から河川敷へのスロープや階段整備
- 静音の小径PR ○にし茶屋街駐車場を活用した観光ルート化
- ジョギング・ウォーキングコースとして活用

「彩る」～美しく楽しい景観・風景の創出～

- 犀川大橋や桜のライトアップ ●花壇の設置による美化
- のぼり旗、ぼんぼり、提灯の設置 ●住民等による清掃活動

「賑わう」～昼や夜に人が集うしかけづくり～

- オープンカフェ（河川敷を活用） ●歩行者天国（花火時）
- マルシェ（市場） ○犀川祭り（大規模イベント）
- 川床・デッキの設置（ビアホールなど） ○屋形船（ボート）の運行

組織体制の検討

ワークショップでは、犀川の活用について方向性や具体案がたくさん出されましたが、実施主体や時期、内容など今後更に詳細な検討が必要です。そのため、犀川の活用に関するマネジメントを担う組織として「犀川活用協議会（仮称）」を設立し、これらの取り組みを計画的に進めていくことも大切であるとの提案がありました。